

司法・犯罪心理学

藤岡淳子 編

2020年10月発売／324頁／本体2500円＋税
A5判／並製



編集
担当者
から

非行少年のステレオタイプとして描かれる、集団暴走や喧嘩に明け暮れる少年を実際に目に
する機会がいったいどれだけあるでしょうか。近年、そうした「元気な」非行少年は絶滅危
惧種となりました。いまや児童自立支援施設に暮らす少年の大半は性問題行動から入所に
至っていて、少年院では再犯防止が最優先事項といえます。

非行も犯罪も社会のあり方に大きく影響を受け、固定的なイメージで語ることはできません。本書
は、法学・社会学等の関連分野も含めた研究から現代における非行と犯罪の定義を示し、公認心理師制
度から生まれた「司法・犯罪心理学」という学問を位置づけます。各論（第Ⅱ部）には、捜査・裁判・
矯正・保護・医療観察・被害者支援といった分野の第一線で活躍する著者を招き、現場での「生きた心
理学」に触れることができる構成です。

最新の知見として、犯罪行動から離脱するための心理学的な介入も実践者目線で解説。体系的な理論
に加えて、司法・犯罪心理臨床のリアルも学ぶことができる1冊です。（W）

Index



基礎理論から現場での実践、最新の話題まで網羅！

第Ⅰ部 司法・犯罪心理学の基礎

第1章 司法・犯罪心理学を学ぶにあ
たって

第2章 犯罪・非行研究の基礎理論

第3章 犯罪行動理解のための心理学
的アプローチ

第4章 対人暴力被害が及ぼす影響

第Ⅱ部 司法制度と心理師の役割

第5章 基本法と司法制度の概要

第6章 捜査

第7章 裁判

第8章 矯正施設の処遇（施設内処遇）

第9章 更生保護と心理学

第10章 医療観察法制度

第11章 被害者支援

第Ⅲ部 犯罪・非行の心理臨床

第12章 司法・犯罪の心理臨床の基礎

第13章 犯罪者・非行少年のアセスメ
ント

第14章 グループ・アプローチ

第15章 認知行動療法的アプローチ

第16章 自助グループと治療共同体に
よる回復

第17章 トラウマインフォームドケア

第18章 コミュニティへの復帰

※小社ウェブサイトの本書のページもご覧ください。

